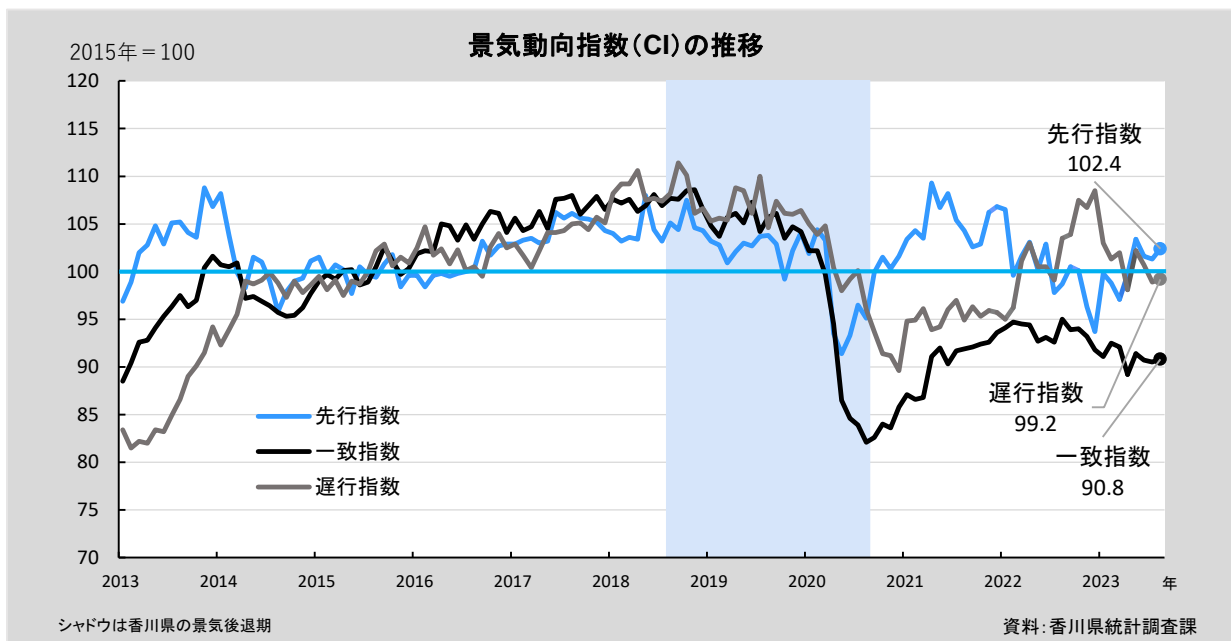


概況	景気は、緩やかに持ち直している。
個人消費	持ち直しの動きが続いている。
住宅投資	低調に推移している。
公共投資	横ばい圏内の動きとなっている。
生産活動	横ばい圏内の動きとなっている。
雇用情勢	緩やかに持ち直している。
貿易	輸出、輸入ともに減少している。
観光	持ち直しの動きが続いている。

景気動向指数(かがわCI) 一致指数 3カ月ぶり上昇



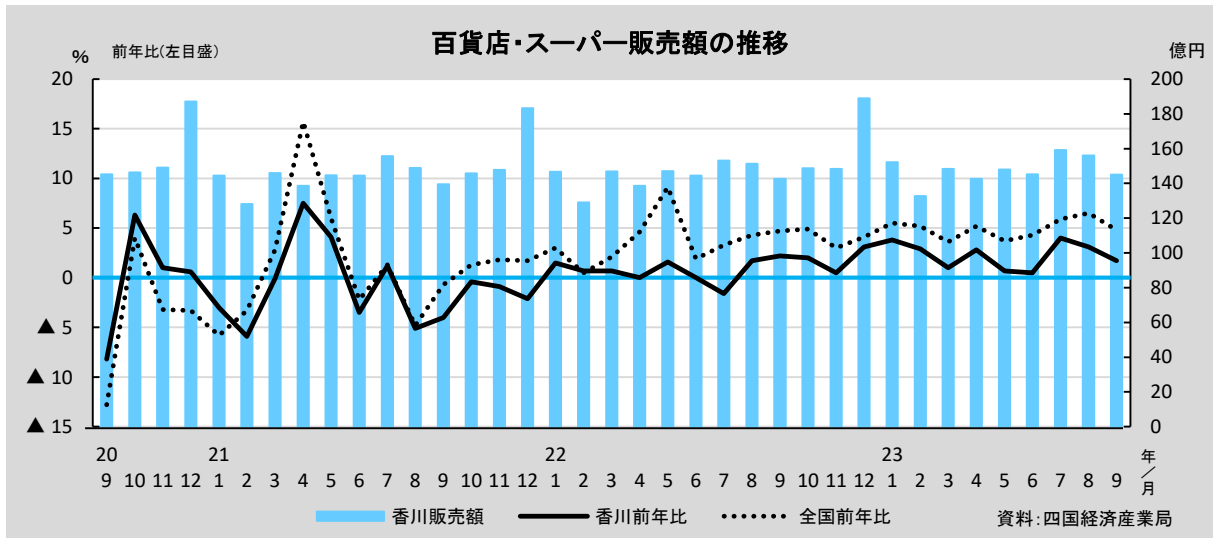
景気の現状をみると、8月のCI一致指数は90.8（前月比+0.3ポイント）と3カ月ぶりに上昇。CI先行指数は102.4（同+1.1ポイント）と3カ月ぶりに上昇。CI遅行指数は99.2（同+0.3ポイント）と3カ月ぶりに上昇。

景気の現状を示す一致系列の個別指標では、鉱工業出荷指数、雇用保険受給者実人員等が上昇に寄与したことにより、前月から0.3ポイントの上昇となった。

	先行系列	寄与度	一致系列	寄与度	遅行系列	寄与度
採用景気指標	1 新規求人数	▲ 0.17	1 雇用保険受給者実人員	0.51	1 常用雇用指数	0.07
	2 乗用車新車登録台数	0.49	2 有効求人倍率	0.01	2 有効求職者数	▲ 0.19
	3 鉱工業在庫率指数	0.69	3 所定外労働時間指数	▲ 0.71	3 消費者物価指数	▲ 0.45
	4 生産財生産指数	1.52	4 鉱工業生産指数	0.37	4 家計消費支出	▲ 0.12
	5 新設住宅着工戸数	▲ 0.66	5 鉱工業出荷指数	1.10	5 鉱工業在庫指数	▲ 0.63
	6 金融機関貸出残高	▲ 0.06	6 建築着工床面積	▲ 0.81	6 法人事業税調定額	1.42
	7 消費者態度指数	▲ 0.54	7 百貨店・スーパー既存店販売額	▲ 0.12	7 第3次産業活動指数	0.42

●百貨店・スーパー販売額

14 カ月連続増加 ↑

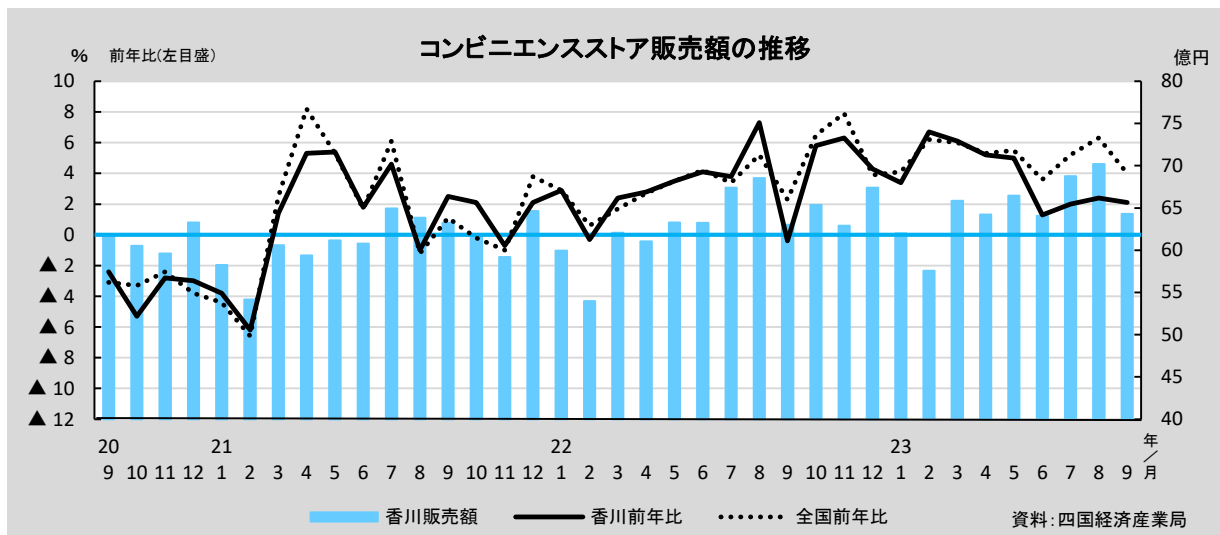


2023/9月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	83,038	59,271	1,082,510	1,446	4,109	62,896	155,986	491	1,449,747
前年同月比(%)	▲ 0.2	4.6	0.2	8.4	▲ 4.2	185.3	▲ 12.0	39.1	1.7

9月の百貨店・スーパー全店(84店)の販売額は145.0億円で、前年同月比+1.7%と14カ月連続で増加した。外出機会の増加等により「身の回り品」は同+4.6%と引き続き好調、「飲食料品」も同+0.2%と堅調に推移した。「衣料品」は残暑の影響で秋物衣料が低調であったことから同▲0.2%となった。

●コンビニエンスストア販売額

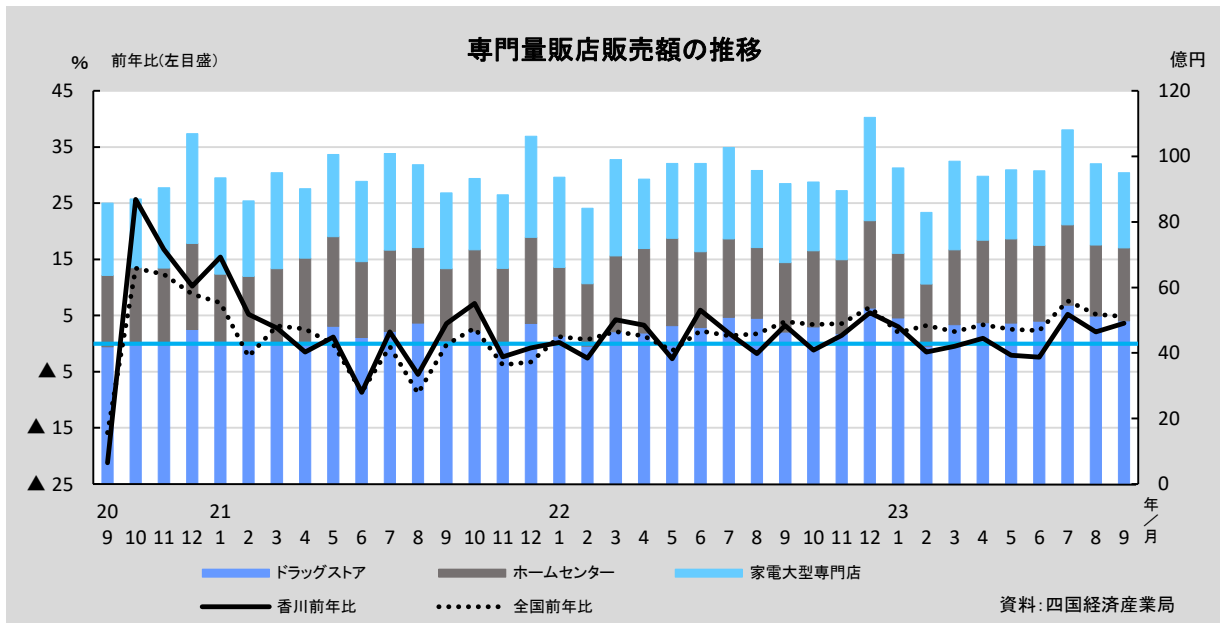
12 カ月連続増加 ↑



9月のコンビニエンスストア全店(401店)の販売額は64.3億円で、前年同月比+2.1%となった。消費者の動向には節約志向がうかがえるものの、商品価格の上昇分が販売額を押し上げたほか、販売促進効果もみられ12カ月連続の増加となった。

●専門量販店販売額

3 カ月連続増加 ↑

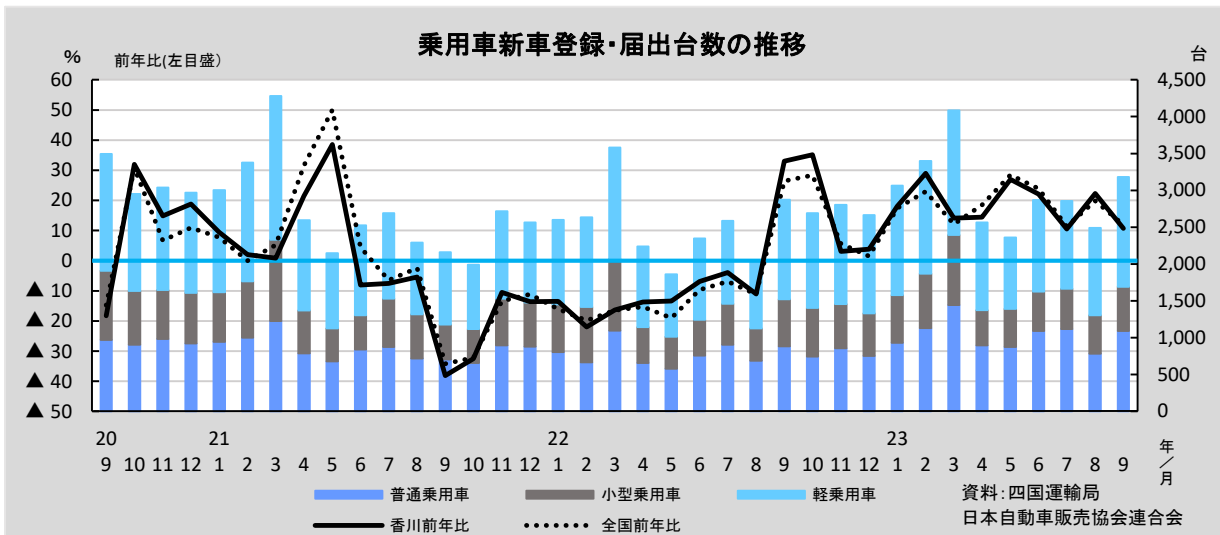


9月の専門量販店全店（214店）の販売額95.0億円で、前年同月比+3.6%と3カ月連続で増加した。

業態別にみると、**家電大型専門店**（28店）の販売額は、前年の反動減に加えテレビ・パソコンの動きが悪く、22.9億円で前年同月比▲4.8%となった。**ドラッグストア**（140店）の販売額は、商品価格の上昇に加え冷凍食品・調剤医薬品などが堅調に推移し、49.8億円で同+7.2%となった。**ホームセンター**（46店）の販売額は、夏物商材の売上が継続し、22.3億円で同+5.4%となった。

●乗用車新車販売台数

13 カ月連続増加 ↑



9月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は3,183台で、半導体や部品不足が深刻だった前年からの反動増で前年同月比+10.8%と13カ月連続で増加した。

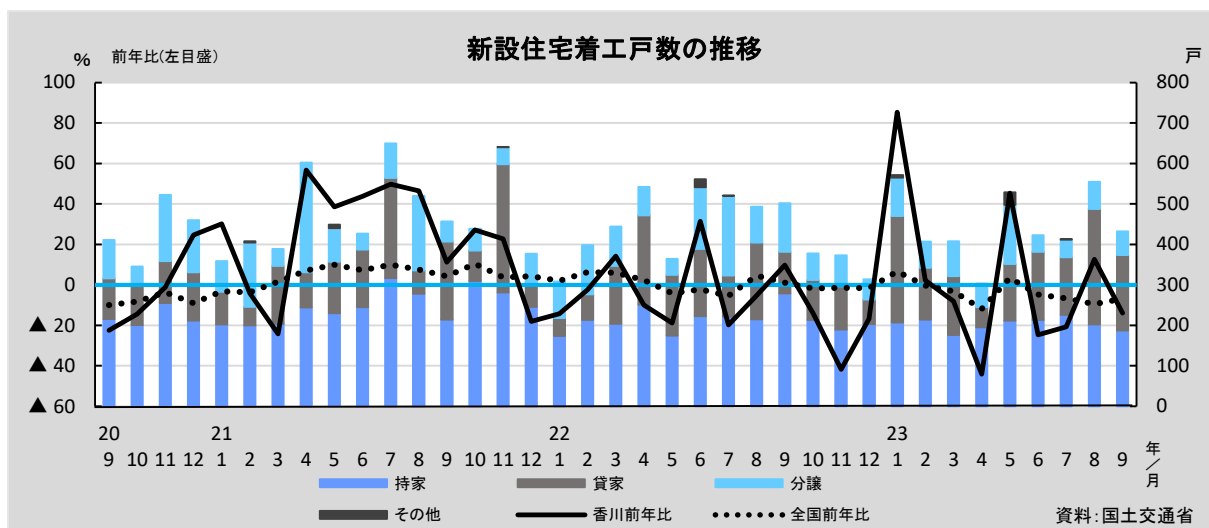
車種別にみると、普通乗用車で前年同月比+24.1%、小型乗用車で同▲6.9%、軽乗用車で同+10.4%となった。

住宅投資

低調に推移している

●新設住宅着工

2カ月ぶり減少



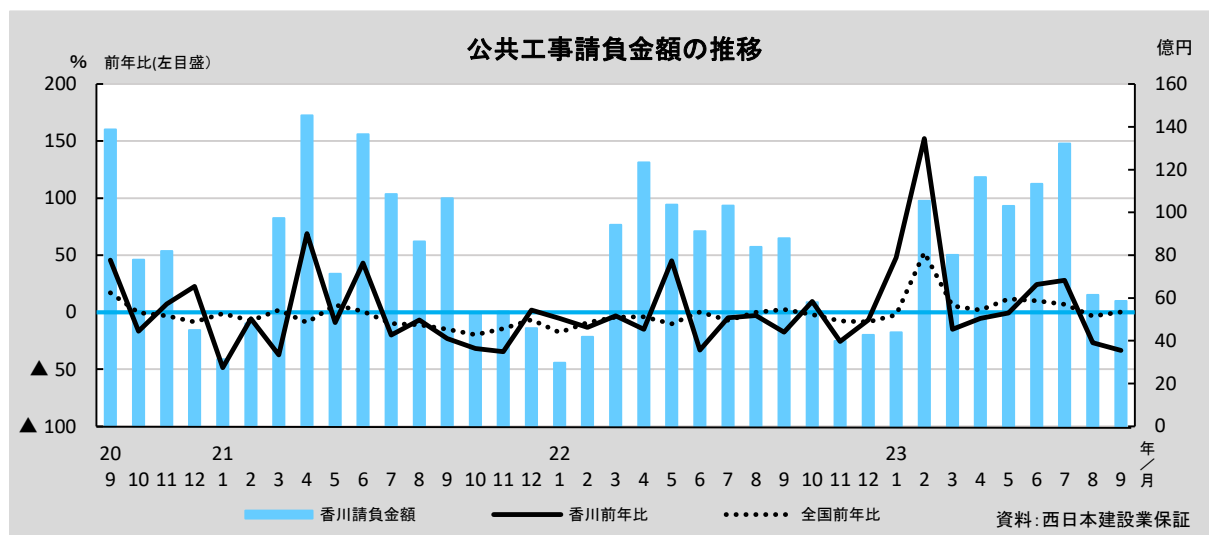
9月の新設住宅着工戸数は432戸で、前年同月比▲13.9%と2カ月ぶりに減少した。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比▲33.0%、**貸家**で同+81.6%、**分譲住宅**で同▲51.7%となった。

公共投資

横ばい圏内の動きとなっている

●公共工事請負金額

2カ月連続減少



9月の公共工事請負金額は58.5億円で、前年同月比▲33.4%と2カ月連続で減少した。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比▲52.3%、**県**で同▲16.8%、**市町**で同▲40.0%となった。

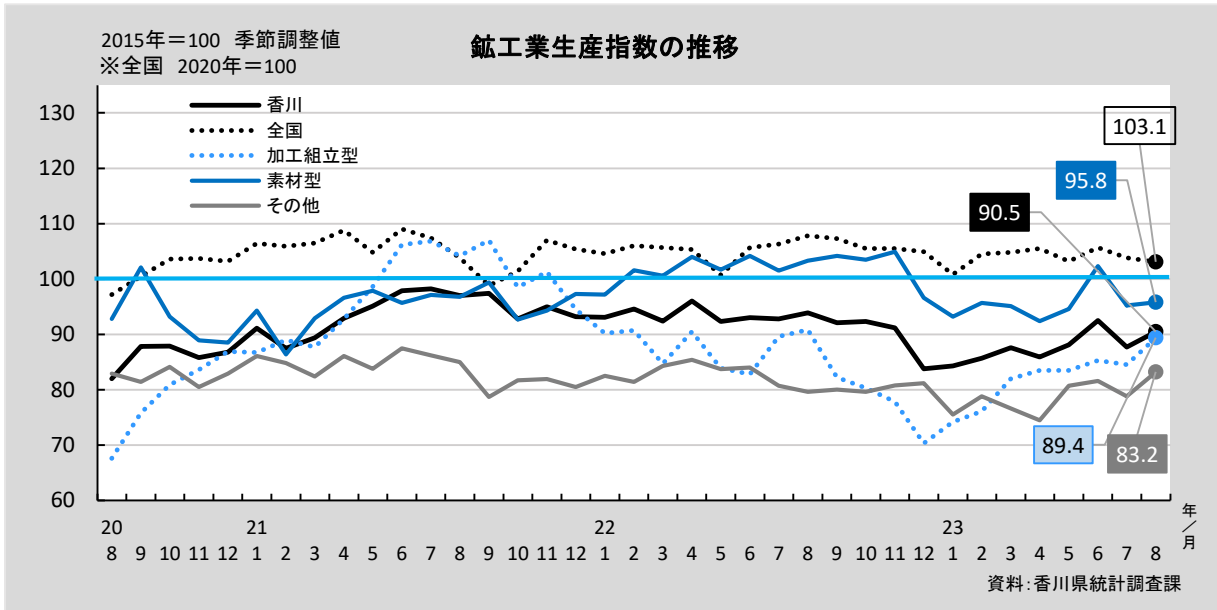
2023.4月～9月の累計では前年同期比1.4%減少している。

生産活動

横ばい圏内の動きとなっている

● 鉱工業生産指数

2 カ月ぶり上昇 ↑



8月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は90.5（前月87.7）となり、2カ月ぶりに上昇した。

業種別では素材型の化学・石油石炭製品工業（医薬品など）は前月比+22.8%、加工組立型の輸送機械工業（鋼船・船用ディーゼル機関など）は同+19.3%と上昇した。

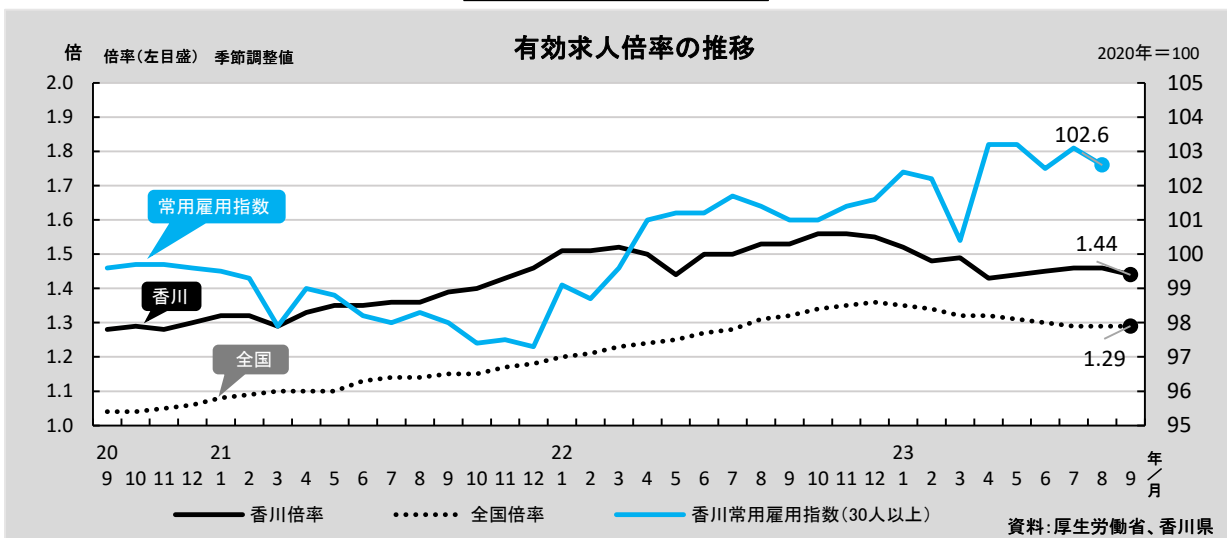
一方、加工組立型の電気機械工業（発光ダイオードなど）は同▲8.1%と低下した。

雇用情勢

緩やかに持ち直している

● 有効求人倍率

5 カ月ぶり減少 ↓



9月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.44倍（全国11位）と前月より0.02ポイント低下した。

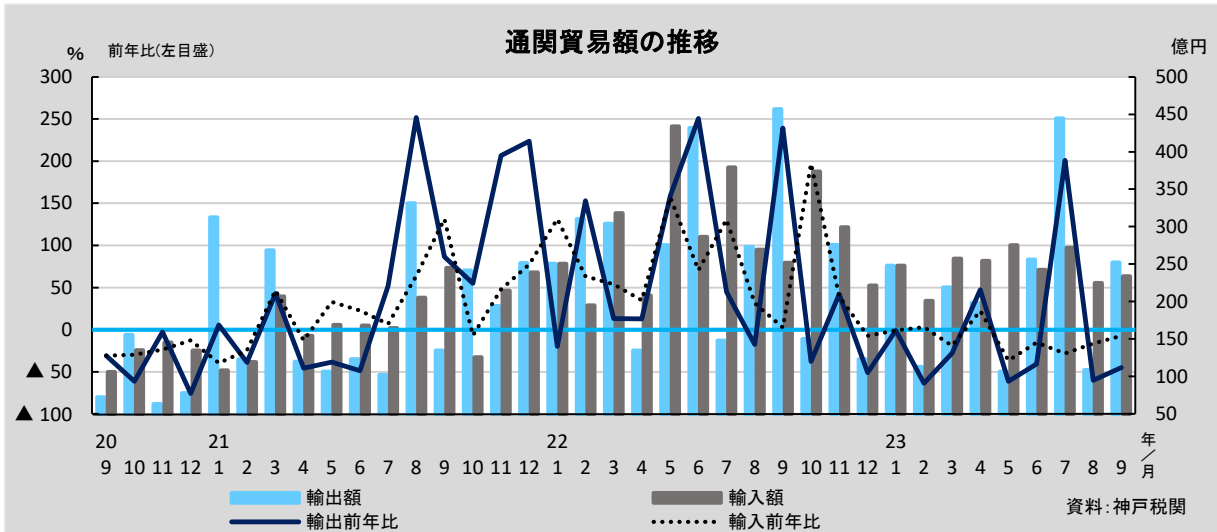
新規求人（原数値：前年同月比）は、建設業、卸売業・小売業、サービス業（他に分類されないもの）、運輸業・郵便業等で減少し、全体で▲7.0%と4カ月連続で減少した。

8月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、102.6となり、前年同月比は18カ月連続で増加した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業従事者	1.91
事務従事者	0.63
販売従事者	2.55
サービス職業従事者	3.40
生産工程従事者	2.36
輸送・機械運転従事者	2.02
建設・採掘従事者	5.49
運搬・清掃・包装等従事者	1.25

貿易

輸出、輸入ともに減少している



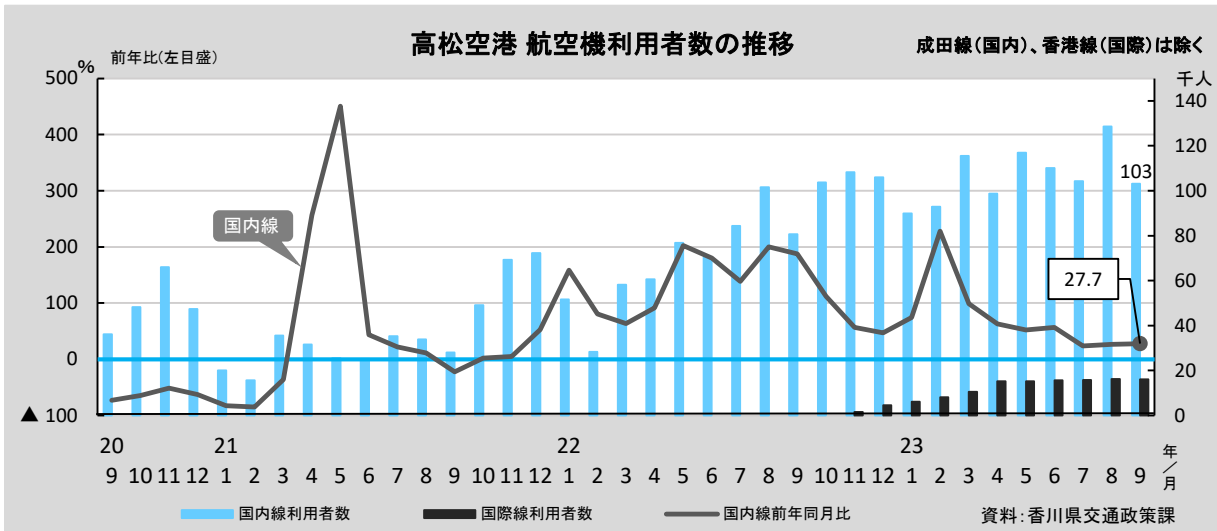
9月の輸出額は前年同月比▲44.8%の252.0億円、輸入額は同▲7.2%の233.6億円となり、差し引き18.4億円の出超となっている。

輸出は、貨物船輸出額が同▲85.3%の31億円となった。輸入は、石炭輸入額が同▲36.4%の79億円となった。

交通

国内線は24カ月連続増加、国際線は順調に増加

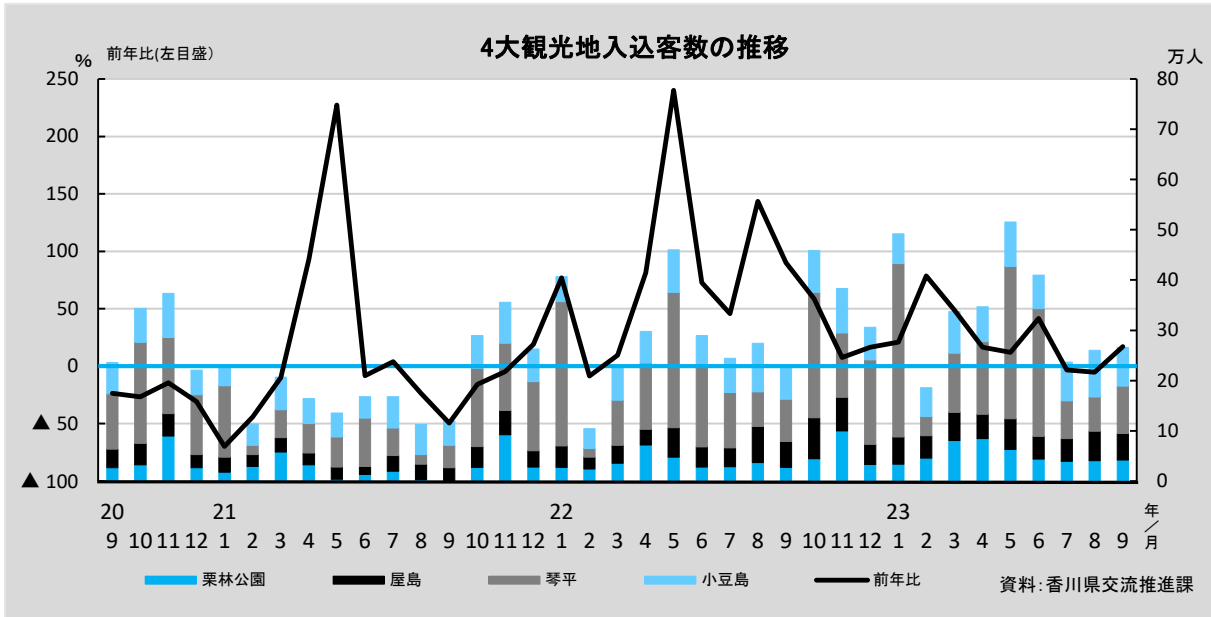
●高松空港旅客輸送実績



9月の航空機利用者数は、国内線(羽田・那覇線)が103,070人(前年同月比+27.7%)となり、24カ月連続で増加した。羽田線は96,056人(同+24.3%)、那覇線は7,014人(同+107.0%)となった。

国際線は、ソウル線が11,132人、台北線が4,723人と堅調に推移し、9月下旬から一時運航再開した上海線の231人と合わせて16,086人となった。

●主要観光地入込客数

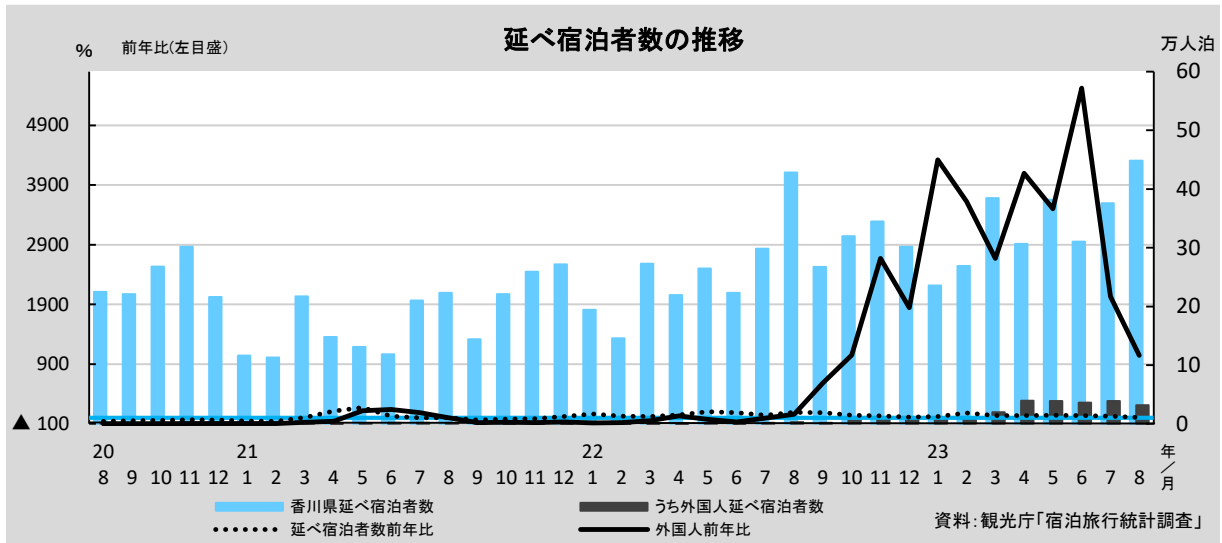


観光地入込客数		栗林公園	屋島	琴平	小豆島	合計					
9月(人)	前年同月比	41,756	51.6%	52,923	3.2%	94,000	11.9%	77,121	20.2%	265,800	17.1%
1~9月累計(人)		473,303	44.7%	465,654	18.7%	1,439,000	18.0%	671,893	13.6%	3,049,850	20.5%

9月の主要観光地の入込客数は、前年同月比+17.1%と3カ月ぶりに増加した。栗林公園は前年同月比+51.6%、屋島は同+3.2%、琴平は同+11.9%、小豆島は同+20.2%と全て増加した。

1~9月の累計では前年比+20.5%となった。

●延べ宿泊者数



8月の延べ宿泊者数は448,660人で、前年同月比+4.7%と21カ月連続で増加した。コロナ禍前の2019年同月比では▲17.0%となった。

うち、外国人延べ宿泊者数は32,080人となり、前年同月比+1,045.7%と13カ月連続で増加した。2019年同月比では▲54.6%となった。